



【すすぎと脱水】

洗いはよく話題になりますけれども、すすぎや脱水がメインテーマになるコトはめずらしいですね。

しかし、よく洗剤の残留がアトピーなどの要因として疑われたり、合成洗剤で洗った肌着でアレルギーの方が、痛みを感じたりする事例があります。

ですから、すすぎだって大切です。では、より効率よくすすぐにはどのようにすれば良いのでしょうか。

（実験結果）

洗いたての衣類は、洗剤や柔軟剤のにおいがします。あれは界面活性剤や芳香剤などが残留しているためです。じつは100%洗剤を取り除くことは不可能なのです。

実験結果（東京学芸大学紀要）を参考にしますと下記のような結果になりました。

洗濯槽に水(20)をためて一回3分すすいだ場合
一回目のすすぎで洗剤の残留は約半分になり、
二回目で約3分の1、三回目で約4分の1となった。
しかし、それ以降回数を重ねてもほとんど変化はなかった。
洗濯槽に水をため、
さらに水(20)を加えて流しながらすすいだ場合
およそ1分で半分の残留になり、6分でためて3回すすいだのと同レベルの約4分の1になった。
(実験対象は綿の肌着)

（効率的なすすぎ）

以上の実験の結果から、すすぎは水をためる場合は3回、流し水の場合は6分が目安となるでしょう。

しかし、流し水の場合は水量に気をつけなければ水をムダにするばかりか、洗濯槽にたまる水量が多すぎると、洗濯機の水流が強くなりすぎて繊維を傷つける可能性があります。

流し水ですすぐ際は、必要最小限の洗濯槽の容量で毎分10%ほどの水量の流し水にするべきでしょう。
又、ためてすすぐ場合は水をかえるたびによく脱水しましょう。

（温水）

もう一つのキーワードとなるのは温度です。
洗いで温水を使われる方もいらっしゃると思いますが、すすぎで温水は、あまり使わないと思います。
実際に家庭では40 前後の温水ですすぐのは難しいでしょう。しかし、洗濯石鹸など残留しやすいものでも、かなりのすすぎ効果がえられます。
洗濯石鹸をご利用の方で、石鹸の残留による黄ばみを経験された方は、一回目のすすぎを温水でためてみましょう。

（脱水時間）

洗濯機による脱水は、遠心力による脱水です。
遠心力脱水は、最初の1分で急激に脱水し、後はゆるやかに脱水していきます。
しかし、ポリエステルと綿では疎水性のポリエステルの方が早くしぼれますし、同じ綿でも厚手と薄手ではしぼれ方が当然違います。
ポリエステルや薄手の綿は3分程度、厚手になると5分程度が目安です。

（デリケート素材）

デリケートな繊維は脱水をやりすぎるとシワが伸びなくなる可能性もあります。
デリケートな繊維は弱脱水の後、タオルでくるみ軽く押して水気をとる様にしましょう。
脱水は乾燥時間にも関係します。乾燥に時間がかかりすぎると、繊維はその間に高い湿度にさらされるので伸び・縮みねじれ等の変形の原因となる可能性が在ります。

{みなさんへお願い}

当店では、地球環境のためにクリーニングハンガーを再利用しております。
回収されたハンガーは、洗浄・消毒をして再使用したり、折れたモノでも分別処理をして再資源化致します。
もし、ご使用にならないクリーニングハンガーがございましたら、ハンガー回収にご協力下さい。
再利用が、ゴミ削減の第一歩です。